

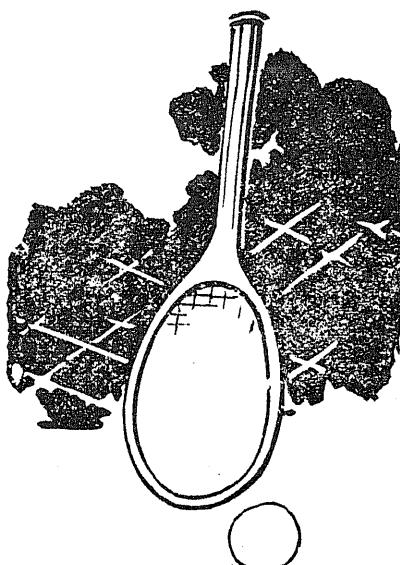
といふ注意が與へられて居ります。

(15) 子供と遊ぶのは幸な事である。

保母に限らず、何處でも、何人でも、子供と一緒に遊ぶ人は、まだ世の塵に染まぬ心を有つて居る子供と遊ぶのであるから、幸福な事であると感する。と言うて居られますが、實に天真爛漫な無邪氣な子供と遊んで居る時には、何人でも何事をも忘れてしまふものでございまして、喜び樂んで居る子供の遊戯を見る時には、全く浮世の外に立つ様なもので、何時の間にか若返つて否子供にかへつてしまふものでござります。まだ汚れぬ純粹な清らかな子供の心を見ては、吾れは?と省みる事が度々でございます。

女子高等師範學校

▲教授の轉任 久しく同校に在りて、教育學、地理學の教授に盡力せられし齊藤鹿三郎氏は、今回廣島縣立高等女學校長に轉任せられ、先月四日赴任の途に就かれたり、同教授は公務の餘暇本誌の爲めに熱心盡力せられたる處少からず。茲に深く同教授の勞を謝するものなり。



六十二

卒業證書授與式 本校卒業證書授與式は、先月

三十日、左の順序によりて舉行せられたり。

卒業證書授與式次第

午前九時三十分 着席

一、唱歌

皇后陛下御製「みがゝすば」（總員起立）

二、卒業證書授與

本校本科卒業證書授與

本校地理歴史專修科卒業證書授與

本校家事專修科卒業證書授與

附屬高等女學校專攻科卒業證書授與

附屬高等女學校卒業證書授與

附屬高等女學校卒業證書授與

四、校長告辭

五、文部大臣祝辭

六、生徒謝辭

本校本科卒業生總代

本校專攻科卒業生總代

附屬高等女學校專攻科卒業生總代

附屬高等女學校卒業生總代

七、唱歌 「はてしなさ」

以 上

今回の卒業生は、本科卒業生六十四名、内文科卒業生二十九名、理科卒業生十六名、技藝科卒業生十六名、地理歴史專修科生二十九名、家事專修科生十六名、合計百九名にして、皆夫れ／＼任地に奉職することなりしが、本年各地方よりの申込は、本科六十四名に對して、實に二倍に達したりといふ。

因に當日は學校長病氣にて鎌倉に轉地療養せられ

しため、町田幹事代はつて、證書を授與せられた
り。

▲送別會 式濟みて後は、例年の如く卒業生と職員との寫真撮影の事などあり、終つて三時より在留學生の催しにかかる送別會あり、席上篠田教授の卒業生に對する懇切なる送迎の辭あり、其大要是、

私は現在女子教育に從事して居るのでありますから、職員の側から申せば、送別辭となります
が、一方から申せば、我が女子教育界に、諸君を歓迎する辭を述べねばなりません

との前置を述べ、夫より教育の功果を得んが爲めには、勤勉、熱誠、忍耐等の代價を要すること、併も此代價を以てして、時に尙失敗を免れざることをあれども此の如き失敗は寧ろ成功に進む一段階

と見るべしと述べられ、尙教育の功果の大なる代
はりに、之を期すは永遠ならざるべからざること
併も、從來の卒業生の任地に赴くや、二年の指定
年限を終ふるを待つ能はずして、早く他に轉せん
とする者の多きは慨すべきの至りにして、此の如
くんば決して教育の功果を見ること能はず、宜し
く、安井哲子、河野清子、河原操子等の事業に鑑
みる所なかるべからず、等、詢々として、祝賀訓
戒の意を述べられたり。

編輯局より

時局は遂に我國開闢以來未會有の盛舉を見るに至
り候。此際貴賤を論せず、男女を問はず、各且其
分に應じて奉公の事に従ふべきは勿論の事に候。
日々の新聞紙は、何れも舉國奉公の美談を掲載致

し候間、茲に再録の必要もあるまじく候。たゞ左の各項のみ特に、記して御一覽に供したくと存じ候。

出征軍人家族慰問婦人會

先般、華族會館に於て發起會を開き、多數の貴婦人によりて成立したる同會設立の趣意の一端に曰

に同感の姉妹等、速かに入會わりて、相與に助慰問の勞をとり、以て婦人が時局に對する務を完うし給へかし。わなかしこ。

東京孤兒院の臨時預兒部開設規則は次に

臨時預兒部規則

第一條 臨時預兒部ハ豫後備ノ陸海軍籍ニアル貧窮者ニシテ應

召又ハ出征ノ爲メ養育シ難キ者ノ子女弟妹ヲ預リ其ノ父兄ニ代リテ養育教導ヲナス

第二條 預育ノ兒童ハ十歳以下ノ者ニ限ル

第三條 預育ノ期限ハ其ノ父兄ノ歸郷迄ニシテ父兄若シ服役中ニ死亡シタル時ハ改メテ規定ノ手續ヲ經院児トシテ養育ノ依

頤ニ應ス

第四條 預育ノ兒童ニシテ學齡ニ達シタル者ハ小學校ニ入ラシ

旨の音信に接せしめ、以て後顧の憂ひを絶ちて、

士氣を鼓舞せん事、最も今日の急務にして、而

も最も婦人にふさはしき企てにぞあるべき。幸

第六條 預育兒ノ數ハ本院ノ都合ニ依テ定ム

右に就き同情者諸君の知り先きに眞に氣の毒と思はるゝ者あらば御紹介を乞ふ。本院は事情の許す限り收容すべしといふことなり。

愛國婦人會への恩賜

同會に於て戰死者遺族及廢兵救護の趣被聞召宮内省より七千圓 皇后陛下より五千圓 皇太子并同妃殿下より二千五百圓を御下賜相成りたる由。

時局と婦人に關し

▲鳩山春子夫人曰く

○勞苦を別つの覺悟 男子は今や鉢を取て戰ひに從事し、種々な勞苦を背めて居る時でありますから、婦人も國民の一員として、假令ひ自ら戰に從事せぬまでも、戰に從ふ人と同一の心懸を以て共

に勞苦を別つ決心がなくてはなりません。故に平常よりは朝でも早く起きて働き、家事を整理し出で得べき丈け、儉約を守るべき、即ち一方には平約を守らねばなりません。戰爭中の國民は、男でも女でも、各々其職分を擧んで、戰地にある同胞と共に勞苦を別ち、國難に酬ゆる精神さへあれば、所謂舉國一致して、敵に當る譯でありますから、戰ひにも勝つとが出来ます

▲下田歌子女史曰く

軍國の要務中、女子の事業として、結果を收むべきもの尠くはありませぬ。或は看護婦隊を組織して、戰場までも出やうと云ふ人もありませうし、又は軍資に献金しやうと云ふ企てもありませう、又出征の軍人を賑はす方法もありませう、殊に此

頃貴婦人方は赤十字社に於て綿帶の製作に従事せらるゝと承はりますが、何れも誠に感激の外は御座ひませぬ。

併し此等の事業は、或は資産饒かなる人でなければ出來ぬとか、或は看護婦に出ることなどは、我邦に於ける家庭の事情が許さぬ場合も多いだらうと思ひます。只だ最も手近き事業は、兵士の最も貧困なる家族を慰めることで、これならば家の經濟を節儉するとか、手近な所を訪問して、慰めもし相談相手にもなるとか、婦人らしい仕事で、志士へあれば誰でも出来ることだらうと存じます。

實際を聞きますと軍人の家族中には、誠に憐むべきものがありまして、就中大病の親が今日明日に迫つて居るのを残し、又は弱き妻が東西も判へぬ小供を多く抱へて、如何に日を送るかの目途な

きをも顧みるに遑あらずして、一意國家の爲め、奉公の爲めと涙を呑んで出征したものが數へられぬ程多いだらうと思ひます。私も度々停車場に於て、田舎の人々が出征の兵士を送りに来て、訣別をするのを見受けまして、涙を禁じ得ぬとがあります。若い人はさうでもないが、髪は白く腰が屈つて六十若くは七十を越したと思はれる老人達が萬歳を唱へて、どーも嬉しい事だ、私の子息も君の爲め國の爲めに出陣をする、誠に難有いとだと自慢しながら、泣顔も見せず送るのを見まして、彼等が情けないとか悲しいとか云ふよりも、却つて悲哀に感じまして、彼等を助け慰めねばならぬと云ふ念を禁ずることが出来ませぬ。

手近な所に憐れる人が澤山居ります。此等の人のが却て健氣な人で、君の爲め國の爲めと申して、

歎き悲しみは致しませぬが、此等の人を助け慰めるのが、第一の事業であらうと思ひます。今日でこそ、人気が昂騰して居りますが、教育なくして貧しき女子は、戦争の長びくと共に、自然心も弛み愚痴も出ませうから、どうか最初の精神を何時までも弱らせたくないと存じます。家族の心を弱らせぬのは、即ち出征者の元氣を維持する所以でありませう。私共は武器を執つて男子のやうに公に奉することは出来ませぬが、男子をして何時までも撓まず銃を握らしめる、銃を執つた手を決して萎えさせないと云ふ事は婦人の覺悟にあると存じます。赤十字社には赤十字社の事業あり、恤兵部には恤兵部の規則あり、看護婦人會もあり愛國婦人會もあり軍人援護會もありますが、多き上にも多きを望みまして、現に戦場に銃を握つて

居る軍人の家族を慰め助ける、専ら出征者の家族を目的とする事業も必要であるのみならず、婦人として最も手近な事業と存じます。

入會報

三月十六日女子高等師範學校附屬幼稚園内にて幹事會を開き總會開會の事に付協議したり出席者は中村主幹田中野口武井小關和田大橋松村雨森下田關幹事并に東氏なりき

入會

本郷龍岡町日本女學校

右紹介

闕すか

岩田よね

本郷區根津須賀町一七

右紹介

中村五六

下田次郎

西多摩郡青梅町二七三

右紹介

松村久

中村かね

轉居

大阪灘波新地五番町一三へ
大阪東區平野町二ノ九〇へ

吉田まさ
奥宮貞

號四第卷四第もど子と人婦

六十八

赤坂青山北町一ノ一
宇都宮下野私立教育會附屬幼稚園
麵町元園町一ノ一七
和歌山市下半町八
青山北町七ノ一稻葉邸内
安藝吳市三田八八四坪田政吉方
番町小學校
四谷左門町三八
改姓

神田じゅん
黒田定治
町田則文
齋藤鹿三郎
下村三四吉
喜多見さき
波多野どく
武田きん
南摩まき
矢作てつ
山口西三郎
西島富壽
横山榮治
堀越源二郎
立花はる
新井傳次
大羽ひさ
市原すみづ
伊藤弘一
佐方しづ
佐谷みちづ
吉村ちづ
波佐谷みちづ
市原すみづ

人子と婦人

斯波やす
谷田部じゅん
鳥居城三郎
佐伯となみ
柴岡てるる
村山つね
新開みゑ
木村茂枝
柳藤中村こう
後閑菊野成
森岩太郎
壹岐しげ
岡田起作
藤澤さつき
高橋忠次郎
加藤せん
雨森ふみ
田中ふみ
武井綱枝
井上たつ
安東ていつ
藤岡とき

内田益加藤谷安藤一枝わねだね
船木やすえ柏木ふさ
石津まつよ村田きぬ
岩瀬かよ高田ます
立野たか枝ます
木山本つる幸ほね
奈良見よねます
木村本つる幸ほね
根來寅枝ます
中村五
五
六

全	番町小學校	東京會員名簿	七〇
全	番町小學校	東京會員名簿	七〇
全	永田町華族女學校附屬幼稚園	東京會員名簿	七〇
全	飯田町五ノ三三	東京會員名簿	七〇
全	富士見小學校	東京會員名簿	七〇
全	三六、九一三七、三	三七、三一三七、五	三六、九一三七、三
全	三七、三一三七、六	三七、二一三七、五	三六、九一三七、三
全	三六、一〇三七、四	三六、八一三七、一〇	三六、九一三七、三
全	三七、三一三七、七	三六、一一三六、一二	三六、九一三七、三
全	三六、八一三七、一〇	三六、一一三七、三	三六、九一三七、三
全	三六、一一三七、四	三六、一一三七、四	三六、九一三七、三
全	一五〇	一五〇	一五〇
全	一二〇	一二〇	一五〇
全	一五〇	一五〇	一五〇
全	五〇	五〇	五〇

東京會員名簿

○野山岸野ち
○小齋藤口ゆ
稻葉みねね
内田かねか
後藤かねか
吉川彦りか
福田さくら
藤崎かかか
川藤かかか
あさ彦りか
いい八人んね
いい八人んね

市川 春代
坂 次郎
保 次郎
下田 次郎
林 次郎
福 次郎
高 次郎
横 次郎
須 次郎
本 次郎
藤 次郎
羽 次郎
本 次郎
田 次郎
千 次郎
ふ 次郎
さ 次郎
耶 次郎
代 次郎
米 次郎
常 次郎
ね 次郎
み 次郎
い 次郎

内幸町一ノ三
土手三番町三井内
下六番町四八
五番町一四
平川町五ノ二四
富士見町六ノ一〇
山元町三ノ四
富士見町二ノ一八
富士見町一ノ三三
三番町二五
永田町一ノ一八

全
飯田町二ノ二五
一番町三四
麴町六ノ一四
元園町六
三番町七〇

婦人と子ども

元園町一ノ三三
富士見町五ノ二〇
富士見町五ノ一一青戸内
四番町三輪田女學校
富士見町五ノ一一
富士見小學校
富士見町四ノ三
中六番町一〇
一番町三七
下六番町四八淺田徳則方
四番町三輪田女學校
麿町三番町五〇
五番町九嘉納方
元園町一ノ七
番町小學校

神田區

中猿樂町一〇	末廣町一〇
表神保町	濱路町一ノ一
駿河臺南甲賀町四	駿河臺北甲賀町一七清水方
表神保町一ツ橋幼稚園	濱路町一ノ一
東松下町二	仲猿樂町一七トナ九
駿河臺袋町七	猿樂町二四
猿樂町二四	旅籠町一ノ一二
猿樂町三ノ三	錦町二ノ三
箱屋町城東小學校	日本橋區
全	
濱町一丁目養德幼稚園	
轟井町六	
元大工町八加藤幸太郎方	
濱町一ノ二七大澤南谷方	

日本橋區

中佐小谷野かね千代尾房代明
岡田千代尾房代明
矢尾房代明
妹尾房代明
十文字尾房代明
多田尾房代明
平山尾房代明
春藤尾房代明
柳井尾房代明
佐藤尾房代明
吉澤尾房代明
佐藤尾房代明
西井尾房代明
柳井尾房代明
春藤尾房代明
佐藤尾房代明
相田原田尾房代明
永賀尾房代明
水色尾房代明
一工尾房代明
加藤尾房代明
眞しだみけりつ豊しねい

蠍殻町三ノ一 靜修學館内
馬喰町四ノ二 中島方

坂本小學校
驥町八

横山町二ノ一六
本銀町一ノ六

坂本小學校
南茅場町五

久松町四ニ竹澤貢之助方
南茅場町五

築地二丁目朝海小學校
木挽町二ノ一三

築地三十番地築地幼稚園
南坂田町一

明石町四六
築地上柳原町三

築地二丁目朝海小學校
木挽町二ノ一三

築地三十番地築地幼稚園
南坂田町一

久松町四ニ竹澤貢之助方
南茅場町五

築地二丁目朝海小學校
木挽町二ノ一三

築地上柳原町三
南小田原町一ノ一

築地上柳原町三
南小田原町一ノ一

築地上柳原町三
南小田原町一ノ一

芝公園六號地三芝麻布共立幼稚園主
芝之區

芝公園六號地三芝麻布共立幼稚園主
芝之區

櫻川町六
全

京橋區

澤 越くが
大野朝比奈
小林千年
小山田糸子
中島行徳
太田とめ
吉田かう
深江とき
タツヒンメ
羽木寺田
杉木山はま
木藤山てる
鈴木眞
伊藤つ
拔山つ
河村巳一
耶

三田通り新町一三
新穂町一九星野方
三田綱町蜂須賀奥
芝公園内芝麻布共立幼稚園
白金猿町五三類榮幼稚園
麻布幼稚園
富士見町二六
飯倉三丁目東京天文臺官舍
麻布幼稚園
永坂町一
麻布第三高等女學校
狸穴町
市兵衛町一ノ一三
鳥居坂鍋島邸内
飯倉町三ノ一
宮村町七
永坂町七一
霞町一八

岩崎たつ
須藤つね
内藤伊彌
勝田すみ
西壽美
吉住きくえ
野澤あい
寺尾きくね
千田孝壽
大竹みさほ
星つね
川村鐵太郎
倉田やす
御厨守忠
利光しづ
脇屋みなほ
北野晴

赤坂區

櫻町赤坂幼稚園
新坂町六
青山北町一ノ一

成瀬きよ
伊藤はま
浅岡はま
五姫

もど子と人婦

全	牛込區	青山高木町八五 青山北町七ノ一稻葉邸内 青山東京府師範學校 青山北町六ノ二九 溜池五
矢來町三		
原町河合幼稚園		
仲町三ノ九彰榮幼稚園		
北伊賀町三三	北伊賀町	仲ノ町三ノ九四谷彰榮幼稚園
全	左門町廿八	永住町二
	麴町十二丁目三八	鹽町一ノ二九
	北伊賀町三三	四谷第二小學校
		北伊賀町二七
		愛住町七六
		愛住町愛住幼稚園

牛込區

袋町一
 早稻田南町一三
 神樂町二ノ一
 中里町二七
 南稲町八〇
 辨天町一一
 神樂町二ノ一七
 南谷山伏町二〇
 市谷加賀町二ノ一〇
 市谷樂王寺前町七四
 白銀町三五
 市谷本村町一〇
 赤城下町八三
 新小川町二ノ一
 市谷富久町七〇西浦榮藏方
 納戸町六
 柳町三九
 市谷佐土原町一ノ二久米古
 指ヶ谷町東京首啓学校
 水道端町小石川幼稚園
 大塚辻町東京市養育院内

大和田りょう
中後藤いと
堤木とし
中桐確太郎
近谷いま
堤てつ
中關いま
堤川島庄一郎
近山田ち
堤溝口慶子
堤龜岡伸子
堤森和子
堤岸村や
堤相馬子
堤西浦を
堤邊福雄
堤森宗子
堤本孝子
堤多村み
堤喜多村
堤歌子
堤安達か
堤小山田
堤西千代
堤信八

高田豊川町日本女子大學校

全校第二寮舍

小日向水道町八四

大塚久保町二七

茗荷谷町八一

月崎町二六

竹早町九四

竹早町一二四

大塚辻町一八養育院内

表町一〇九

小石川竹早町東京府第二高等女學校女子師範學校

笠佐木野石井藤山田永地待核

笠佐木野梅吉野操

元町一ノ二

新花町六〇

龍岡町一八

森川町一新坂上宇津野方

弓町二ノ三四

駒込動坂三三七小笠原方

森川町一牛屋横二五五號

春木町三丁目森方

龍岡町日本女學校附屬幼稚園

東竹町一一

金助町一

根津八重垣町四〇

森川町一新坂通三四五號栗原力

森川町一

西片町一〇に二十五號

春木町二ノ二一

龍岡町日本女學校附屬幼稚園

湯島女子高等師範學校内

湯島女子高等師範學校内

湯島女子高等師範學校内

湯島女子高等師範學校内

湯島女子高等師範學校内

福井喜多島

吉武しよう

田村すみ

伊藤かめ

古市藤並

柳原英

佐藤貞

藤原英

伊藤貞

神林貞

磯根貞

畠根貞

野井貞

土井貞

岩井貞

藤井貞

居井貞

田井貞

居田貞

居起貞

居順貞

居高貞

榮子

やね

めと

めね

수 수

尾高吉堀波今伊大西小後山矢南武波林佐伊下中喜佐森下町谷黒
田山村越佐立藤羽島池閑口作摩田多野伯藤田村多見方岩三田部定
けふ千次み源谷せひ富み菊三てまきと外弘次ニ佐太四則
いみ鶴郎ち裕いさ壽つ野郎つきんく蝶浪一郎う喜鎮郎吉文順治

金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金 金

全校寄宿舍

下谷區

仲徒町三ノ七五
竹町二十六
根岸小学校附屬幼稚園
池ノ端七軒町三八
上根岸一一〇
仲徒町三ノ七〇
谷中坂町二八
上根岸八二

○
大森横小村渡和三
久保川田野田邊田谷
雲枝清いるちうら保
けてみてみこく

○◎○◎○
藤加岩奈益武松雨田下東中市新立楨加斯
谷藤田真田井村森中田村原井花山藤波
いきゆあ一綱ふ基五壽博は榮や
わつきい枝枝久釣み鶴吉六見次る治節す

谷中初音町四ノ一三二

櫻木町一

車坂町一〇七

徒町三ノ一七

入谷町二一

淺草區

向柳原町柳北女子小學校

象潟町淺草幼稚園

千束町二ノ一四〇

須賀町二

千束町二丁目

松清町四〇德風幼稚園

東三筋町五八

七軒町東京府第一高等女學校

全全全全全

新片町三

本所區

元町江東小學校

全全全

酒井好斯	酒井好斯
川邊かす	川邊かす
島みつ	島みつ
川渡邊	川渡邊
築山	築山
三保田利德	三保田利德
科修	科修
鳥居しげ子	鳥居しげ子
浅井はづ	浅井はづ
大村千代	大村千代
市山ささ	市山ささ
新田ささ	新田ささ
土取ささ	土取ささ
山開ささ	山開ささ
田まるささ	田まるささ
源三ささ	源三ささ
枝三ささ	枝三ささ
扶尾ささ	扶尾ささ
藤たきささ	藤たきささ
安服ささ	安服ささ
福部ささ	福部ささ

深川區

萬年町明治小學校

明治小學校幼稚園

深川小學校

深川東森下町深川小學校

八名川町四〇荒木伊三郎方

西町二八

會告

來總會に於て本會幹事半數改選相成るべきに付き
右在京會員中より幹事五名を選びの上總會當日迄
にお差し出し相成度候

○は退職幹事
◎は留任幹事

金子きた
玉尾こま
清家寛二郎
満岡さよ
池邊千束

佐久間よね
矢澤わさ

上遠野あい

前野とき

高木基子